

第1章 はじめに

1-1. 平戸市における夜間景観へのとりくみの背景

1. これまでの平戸市における景観への取り組み

平戸城下旧町地区の対象地区においては、2005（平成17）年度から順次、街なみ環境整備事業計画を策定し、「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」という基本理念のもと、「歴史的まちなみづくり協定」を締結し、「まちなみ整備基準」に基づき、町屋を整え、看板や広告類も歴史的景観と調和を図るなどのまちなみ整備に取り組むこととしました。

対象地区は、崎方町、浦の町、宮の町、木引田町、築地町、紺屋町、新町、魚の棚町及び職人町の9町で、2005（平成17）年度から2019（令和元）年度までの15年間「街なみ環境整備事業」を実施し、町屋修景と地区施設整備の両輪で、良好なまちなみの整備を図りました。

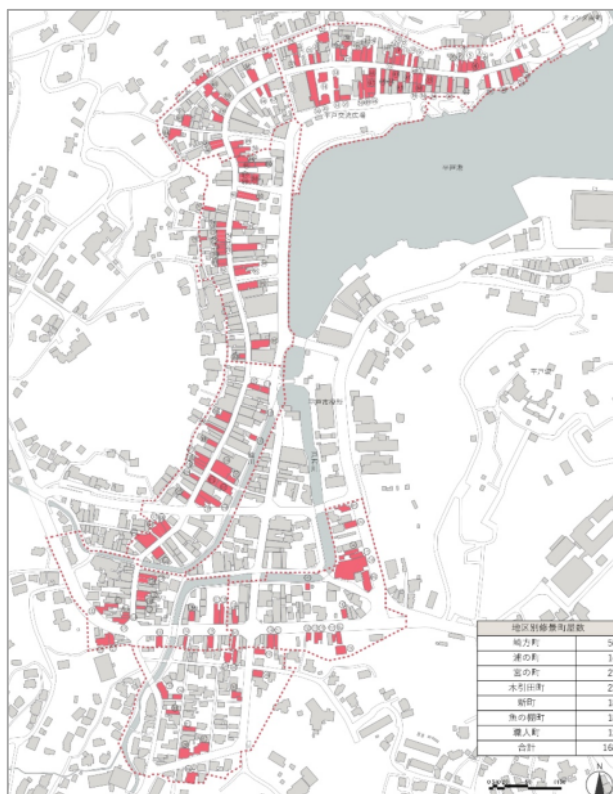
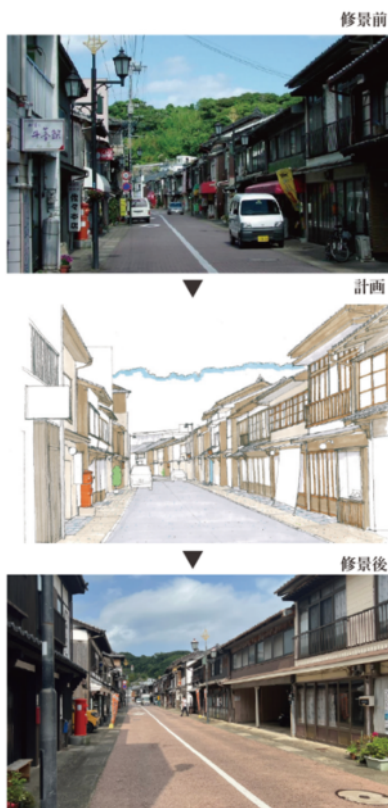
これにより、168棟の趣ある町屋修景と併せて道路美装化、無電柱化及び街路灯などの地区施設整備も行い、他に類の無い美しいまちなみ景観が整ったところです。

◆街なみ環境整備事業の基本理念

計画の基本理念
歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり

平戸市の中心市街地は城下町時代の歴史をもち、古くから商店が建ち並んでいたところである。市街地は端から端まで歩いてわずか30分程度の広さだが、その間に平戸の歴史、産業、自然、文化といった数多くの魅力溢れる資源に触れることができる。その市街地の「歴史を活かし」、商店街全体を「歩いて楽しいまち」として演出し、平戸市民、そして観光客が、歩きたくなる、再び訪れたいまちとなるよう「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」を基本理念とする。

◆街なみ環境整備事業の実績



平戸城下旧町地区街なみ環境指針策定業務委託報告書より引用

2. 夜間景観の形成に向けた動き

15年間にわたって実施した「街なみ環境整備事業」の足跡と検証、修景町屋の利活用及びこれからのまちづくりの方向性などを見い出すため、令和3～4年度にかけて「街なみ環境指針策定業務委託」を実施し、修景された町屋所有者へのアンケート調査や住民参加型のワークショップを3回開催するなど多くの意見やアイデアを聴取しました。

「あかりのまちづくりを学ぼう」と題して実施したワークショップの中で、修景された町屋にあかりを灯し、付加価値を加え、夜間のそぞろ歩きを誘発させるための提案となった「素敵な夜間景観づくり」や「歩いて楽しいみちづくり」、「魅力ある駐車場づくり」など、今後の方向性として10のエリアビジョンが示されました。

なかでもこの「素敵な夜間景観づくり」に対する反響が大きく、これに呼応する形で、地元の平戸まちづくり運営協議会が中心となり、「ほのあかり事業」を企画され、令和4年度から崎方町を皮切りに事業が展開されています。

◆素敵な夜間景観づくりのイメージ図



平戸城下旧町地区街なみ環境指針策定業務委託報告書より引用

◆ほのあかり事業

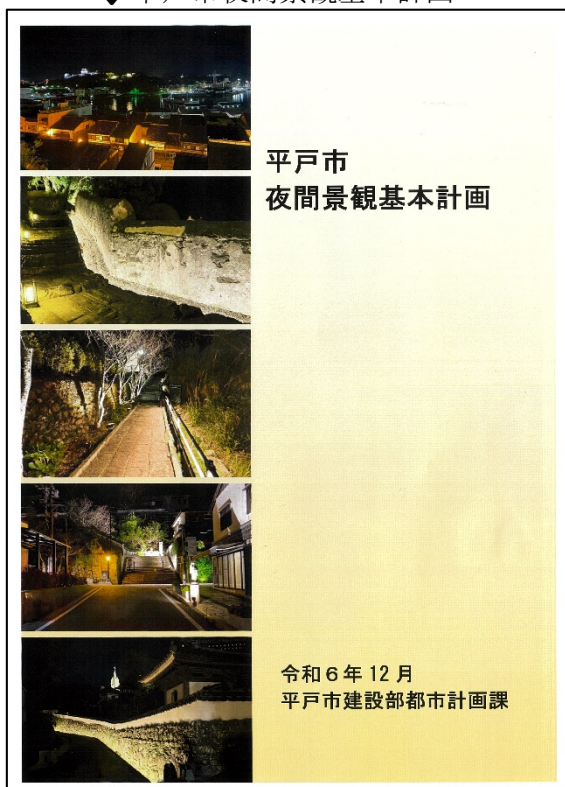


3. 「平戸市夜間景観基本計画」及び「平戸市夜間景観ガイドライン」の必要性

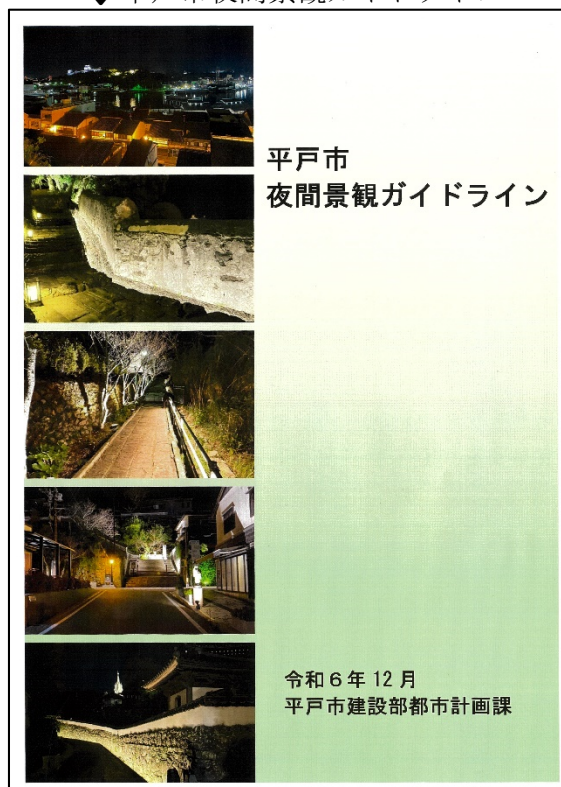
市民主導で実施されている「ほのあかり事業」と足並みを揃え、官民連携し、より効果的な夜間景観の創出を目指し、行政として取り組める公共施設の整備及び改修を図るための「平戸市夜間景観基本計画」と「あかり」に対する一定のルールと誘導演出を図る観点から、「平戸市夜間景観ガイドライン」を策定する必要性が生じました。

このため、令和5～6年度にかけて「平戸市夜間景観基本計画等策定業務委託」を実施し、全国における夜間景観整備の事例紹介や商店街活性化に取り組む方々からアドバイスを受ける「ほのあかりミーティング」の実施、崎方町のオランダ塀や松浦史料博物館前などをライトアップして、崎方町の街なみから崎方公園下遊歩道を通るルートにおいて、あかりの社会実験として「ほのあかりナイトウォーク」の開催、さらには平戸市夜間景観基本計画（案）の中間報告などに対する「ワークショップ」を行い、その中で寄せられたアンケートや意見、社会実験での検証結果も参考としながら、「平戸市夜間景観基本計画」及び「平戸市夜間景観ガイドライン」を策定することとしました。

◆ 平戸市夜間景観基本計画



◆ 平戸市夜間景観ガイドライン



1-2. 平戸市における夜間景観形成の重要性と目指すもの

1. 夜間景観形成の基本的な考え方

人々のライフスタイルの変化などにより、今日では日没後の良好な景観形成は非常に重要となっています。ただ明るさを確保するための照明整備だけではなく、美しく風格のある都市形成や快適で健やかな住環境づくりなど、良質で場所に応じた夜間景観形成が求められています。

例えば公園などの公共空間では、環境の魅力づくりと共に夜間の利活用を支える手法として、観光の視点では地域の魅力を際立たせ、誘客や滞在快適性を高める手段として、まちづくりにおいては地域への愛着やシビックプライドを担う景観魅力の更新手段としてなど、国内外で様々な計画が策定・実装されています。また、防災においても視覚情報としての照明効果が注目されるなど、屋外環境における「あかり」の役割はますます大切なものとなっています。

一方、都市部での無計画な発光物の乱立や映像装置による過剰な照明、伝統的な街なみにそぐわない色温度や明るさ、電柱の林立、自然環境を鑑みない投光など、景観と共に環境配慮や省エネルギーの観点でも様々な問題点が指摘されています。



【橋梁群のライトアップ】

テムズ川にかかる橋梁のライトアップで河川景観を形成。2020年には全15橋を新たな照明デザインに着手するなど積極的な夜間景観づくりが行われている（ロンドン）



【港湾再開発】

港湾を囲む各エリアで大規模な建築・ランドスケープデザイン・夜間景観が整備されている（オスロ）



【夜間景観形成実施計画】

ウォーターフロントを中心に2010年から夜間景観形成に取り組んでおり、ランドスケープと夜間景観の改修で多数のにぎわいを獲得したメリケンパーク（神戸市）



【文化財・城跡を活かす】

歴史的なランドスケープを照明によって観光資源として再生しようという取り組みは各地で始まっている（鳥取城跡）

2. 平戸市における夜間景観形成に向けた取り組みの重要性

今日の観光都市においては、宿泊や飲食などにつながる夜間景観形成やナイトエコノミーを喚起する夜間・早朝の観光施策が課題となっています。

また、インターネットを介した個人旅行の普及など旅行形態の変化によって、観光地には映像・画像で地域魅力を発信できる「絵になる夜景」の創出と確立が不可欠になってきました。

そういった背景と長寿命で省エネルギーなLEDの普及により、今日では多くの観光地がその夜間景観魅力の磨き上げに着手し、まちの個性を際立たせる美しい夜景による誘客と住み営むシビックプライドの醸成に取り組んでいます。

古くからの国際貿易都市であった平戸市は、多くの歴史的遺産と豊かな自然環境に恵まれた観光都市です。これまでも平戸城や幸橋（オランダ橋）、平戸ザビエル記念教会など主たるランドマークのライトアップ等を実施していますが、設備の更新や演出方法なども含め、まだまだ伸びしろがあると思われます。

15年間にわたり「街なみ環境整備事業」で実施した修景町屋などの美しいまちなみ景観を今後も維持し、「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」実現のための夜間景観形成による夜の魅力度アップや宿泊目的につながる「絵になる夜景」の創出への取り組みは、これから重要となってきます。



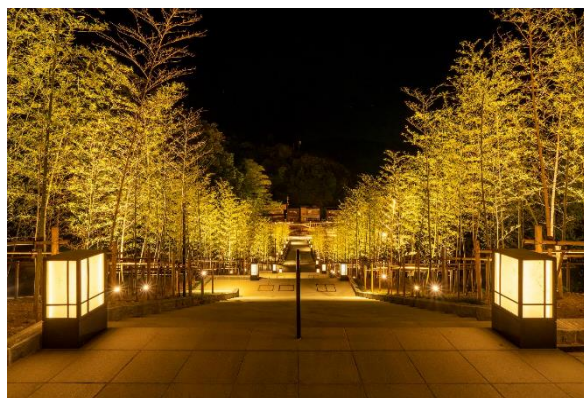
草津温泉（群馬県草津市）



城崎温泉（兵庫県豊岡市）



水木しげるロード（鳥取県境港市）



長門湯本温泉（山口県長門市）

3. 平戸市における夜間景観形成の目指すもの

歴史ある観光地や豊かな営みを続けてきた地方都市には、既に様々な都市魅力が存在しますが、それらのほとんどが意図せずに活かされていないか、もしくは更新されずに数十年前と同じ環境が続いてところも見られます。

一昔前までは、照明整備に関する公共のルールや方針が策定又は更新されず、夜間景観形成の理念さえもないのが一般的でしたが、LEDの普及と公共空間の利活用に関する考え方の変化により、多くの自治体で夜間景観形成に向けた取り組みが始まっています。

美しい港湾風景や歴史的な遺構があり、修景された町屋のまちなみがある平戸城下旧町地区においても、夜間はその多くが活かされていない状況です。

この基本計画によって、修景町屋やランドマークなどの利活用による観光資源としての「美しい夜景」はもとより、ウォーキングやイベントなど市民の夜の活動を支え、安全安心で快適な魅力ある夜間景観形成の実現を目指します。

不安な場所から



安全安心な場所へ



- ・暖かな色温度
- ・樹木ライトアップによる安心感
- ・低位置の間接照明による歩行の安心感
- ・まぶしさの無い落ち着いた環境
- ・暗がりの払しょく

樹木ライトアップは、鉛直面の明るさ感を高め、安心感を創出した例

暗く寂しい水辺



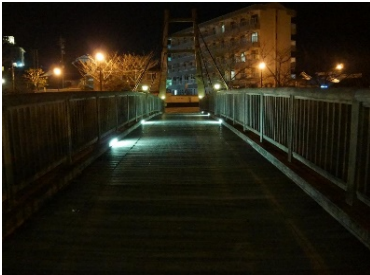
本来の魅力が活かされた水辺



- ・鉛直面の明るさ感
- ・元からある場所の個性を磨く
- ・暗がりの払しょく
- ・まぶしさの無い落ち着いた環境

白い拡散光（水銀灯）だけの環境から、あたたかな間接照明で構成された環境へ更新した例

見えないランドマーク



誇れるランドマーク



- ・暖かな色温度
- ・鉛直面の明るさ感
- ・元からある場所の個性を磨く
- ・暗がりの払しょく
- ・まぶしさの無い落ち着いた環境
- ・観光地にふさわしい美しさ

最低限の明るさを確保する照明から、観光地にふさわしい明るさ感と美的価値を創出した例

1-3. 平戸市における夜間景観基本計画の目的

1. 目的

本計画は、平戸城下旧町地区及びその周辺エリアにおいて「夜間景観」に着目し、良好な夜間景観形成とあかりを活かした観光まちづくりを通じて地域の魅力・価値を高めることを目指し、戦略的に夜間景観の向上を図るための照明の基本的な考え方と方針を示すことを目的としています。

1) 平戸らしさを活かし、市民が誇れる夜間景観を形成する

平戸城下旧町地区とその周辺には、城や教会などの建築物、特徴のある土木構造物や街路、15年にわたって再生してきたまちなみなど、独自の景観資源が数多くあります。

また、周囲を山に囲まれた平戸ならではの港の眺望や、玄界灘につながる海の景観など多様な景観が見られます。

本計画では、そういった平戸城下旧町地区ならではの景観魅力・文化的資源を、夜間の景観資源として視覚化し、市民の方々が住まい営む誇りとなるような夜間景観形成をめざします。

2) 市民が安全・安心に暮らせる環境を整える

現在の平戸城下旧町地区とその周辺においては、照明の無い暗い道や公園などが散見されます。

本計画では、市民の日常の安全安心の確保を念頭に、道路・公園・港湾緑地・遊歩道やポケットパークなどの夜間の環境を、利活用の頻度や観光まちづくりの視点から安全・安心な環境へと改善することを計画します。

3) 宿泊観光・ナイトエコノミーに寄与する絵になる夜間景観を形成する

宿泊動機につながる魅力的な夜間景観の創出や夕刻から夜間にかけてのそぞろ歩きを誘発するためのあかりの配置計画は、現在の観光まちづくりにとって非常に重要です。

本計画では、平戸城下旧町地区ならではの景観魅力・文化的資源を夜間の景観資源として視覚化し、国内唯一無二の「絵になる夜景」の創出によって、平戸市のブランド価値向上と感度の高い情報発信、新たな宿泊観光や市内飲食店利用の活性化などにつなげていきます。

4) 環境に配慮した照明計画の実現

まちを安全安心で快適にすると同時に、省エネルギーな光源や効率的な照明計画、時間ごとの調光制御などに取組み、エネルギー効率と美的価値創出のバランスの取れた夜間景観形成ができるような計画を行います。

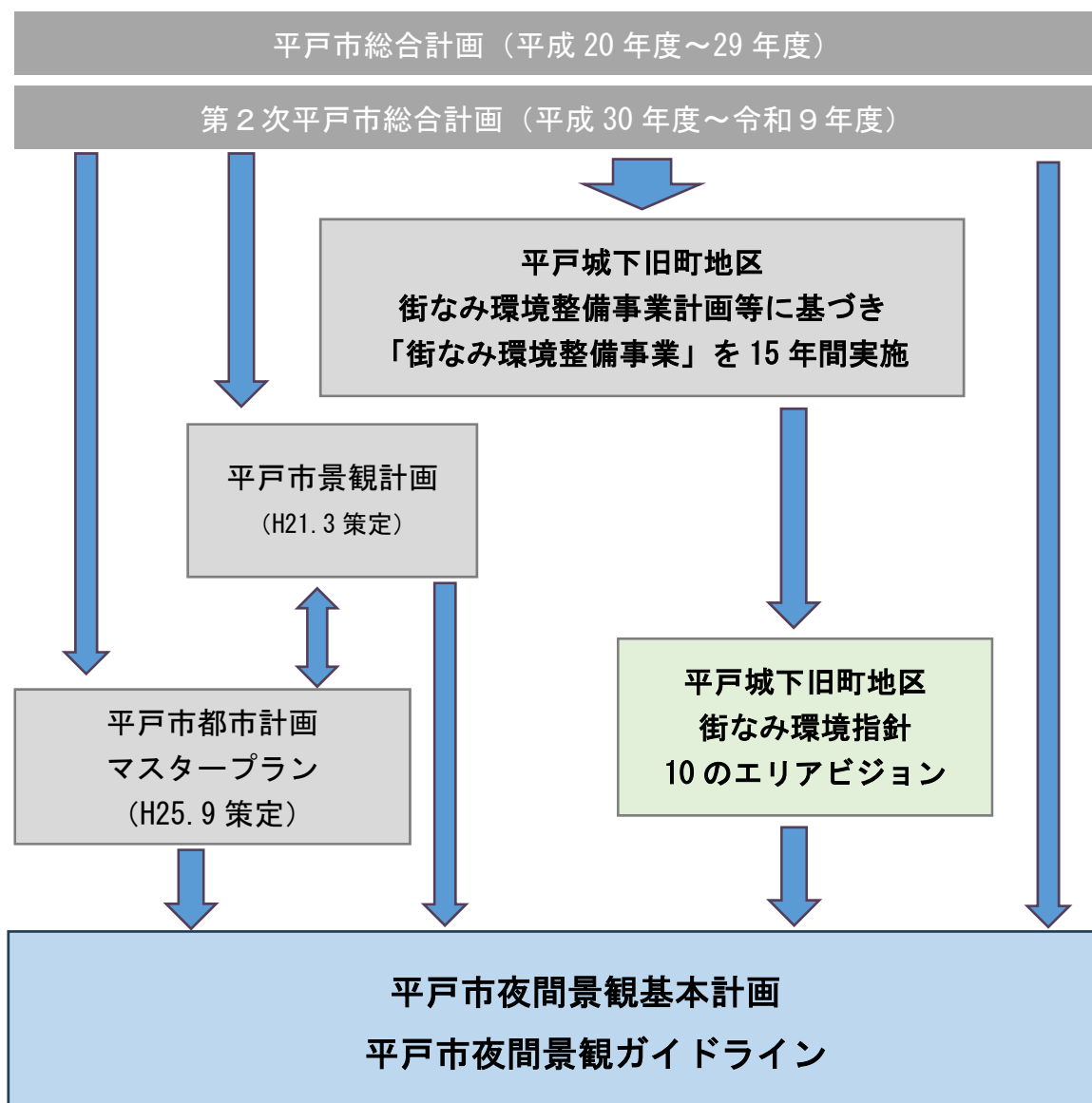
1-4. 夜間景観基本計画の位置付け

1. 位置づけ

平戸城下旧町地区及びその周辺エリアの魅力ある夜間景観の形成は、平戸市の景観形成に関する基本的な方針を定めた平戸市景観計画（平成 21 年 3 月策定）を上位計画とし、そこで示される地域の景観づくりの方針に基づき、それらを推進するための重要な取り組みの一つと位置づけます。

また、平戸市で掲げている「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」の実現に向けた実施計画として位置づけます。

本計画では、上位計画や関連計画、各種関連施策等との連携を図りながら、平戸城下旧町地区等における光環境の方向性と継続的な平戸らしい魅力ある夜間景観を形成するためのポイントを示すこととしています。



1-5. 夜間景観基本計画の対象エリア

1. 対象エリア

本基本計画の対象エリアは、おおむね主要な視点場（ビューポイント）である崎方公園下の遊歩道、平戸港交流広場、平戸城及び寺院と教会が見える道付近から視認でき、市内外からの来訪者が多くと見込まれる平戸湾周辺と、平戸城下旧町地区において、2005（平成17）年度から2019（令和元）年度までの15年間、街なみ環境整備事業を実施してきた崎方町、浦の町、宮の町、木引田町、築地町、紺屋町、新町、魚の棚町、職人町及びその周辺エリアとします。

